

暮らしを支える税

新居浜市立中萩中学校1年 松原 七海

私の祖母は、四年前に認知症と診断された。月日が過ぎていく中で、祖母は物忘れがひどくなり、一人で生活をするのが難しい状態になってきた。私が知っている祖母は、庭の手入れやウォーキングをしている元気な姿だったので、認知症によって日常生活を自分で送ることが難しくなっていく祖母の姿を見るのがとても辛かった。

認知症に対して後ろ向きな気持ちだった私が、祖母のグループホームへの入所をきっかけに介護や税について考えるようになった。祖母がグループホームへ入所した後、私も両親と一緒に介護施設を訪れた。施設では、介護職員、社会福祉士、栄養士と多くの職員の方が、祖母が安全で健康的に生活を送れるようにと考えてくれていることを知った。何より、祖母が施設の方と笑顔で話している姿が、私の気持ちを明るくした。たくさんの方の力と、手助けを借り、介護サービスを利用することで、祖母の暮らしに笑顔が増えることは、家族の幸せでもあると思う。

介護の手助けとなる介護サービスの利用者負担は、サービス費用の一割である。残りの九割は、税金である社会保障制度で、まかなわれている。これらのサービスを自費で負担ということになると、経済力のある人だけが、介護サービスを利用できる、ということになってしまう。これは、医療の分野でも同じことが言えると思う。もし、病気やケガの治療費が全額自己負担となれば、経済的な理由で、治療が受けられない人もでてくると思う。私達の日常生活は、税金がなければ成り立たない。家族みんなが健康なときには気づかないが、どんな人にも社会保障は、平等に必要である。それを支えるのは、国民一人一人が払っている税金だ。

日本では少子高齢化がどんどん加速してきている。二千五十年には、一人の高齢者をほぼ一人の働き手が支えなくてはならない社会がやってくる。祖母の介護をする両親を見ていて、家族だけで介護をすることは身体、精神面ともに厳しいと感じた。祖母の介護を通して、税金を納めること、使い道を考えることの大切さを実感する。中学生になった今、大人が考えることだと思っていた税金のことも、考えることが出来るようになった。祖母の笑顔が、ずっと続くように、私もその笑顔を支えられるようになりたい。そのためには、日本の税金について真剣に考え、行動していくことが私達の務めだ。